

キューバの児童書選書にかかわる調査報告書

2020年3月
報告者: スペイン語翻訳者
千野祐子

1. はじめに

カリブ海に浮かぶ島国キューバ共和国¹（以下、キューバ）は、その芳醇な音楽文化や南国らしい自然の美しさ、そしてキューバ革命やキューバ危機という歴史など、鮮烈な個性で世界中から注目を集める国であり、日本でもここ数年でかなり幅広く認知されるようになってきている。反面、社会主義体制の特殊性や、アメリカ合衆国による経済封鎖などの要因から、経済発展や物流、情報の開示などが滞り、外側からは内情が見えにくい、複雑な苦境を抱える国でもある。

出版事情、児童文学事情も同様に、ラテンアメリカ全体を牽引するような文学者を幾度も輩出してはいるが²、世界に流通する作品はかなり少ない。こうした背景から、国際子ども図書館にキューバの児童文学に関する書籍が所蔵されていない事情は十分理解できる³。だからこそ、キューバという国を、これまでほとんど注目されることのなかった児童文学という側面から捉え直し日本に伝える本プロジェクトはとても価値あることと実感している。

2. キューバの児童文学の傾向・特徴

文学作品全般に言えることだが、キューバの児童文学作品も、歴史的、文化的、及び政治的背景の影響を色濃く反映している。

キューバ文化は、カリブ圏という土壌の上に、スペインやアフリカの文化が400年以上の時をかけて深く融合したものが根幹となっており、児童文学にもその特徴がある。キューバ革命（1953～59年）直後は、社会主義体制の影響から、史実に基づいた物語や政治的啓蒙色の強い作品が主に出版されていたが、この30年間に出版された作品を見渡すと、かなりバリエーションが豊かになってきていることがわかる。カリブ先住民族の口承文学を採集・再編した作品や、アフリカ源流の神話・民話をベースにした作品、アフリカの特徴が強く反映されている作品（アフロキューバ）、キューバ生まれのスペイン人「クリオーリョ（criollo）」や黒人奴隷、その混血「ムラート、ムラータ（mulato, mulata）」をテーマにした作品、加えて、ファンタジーや推理物など自由な作風の創作物語といった作品の増加傾向がみられる。

以下に歴史的背景の説明とともに文化的特徴と政治的影響を述べる。

キューバの先住民族（タイノ族、シボネイ族など）文化は、1500年代のスペインによる征服・植民地化の中で壊滅に近いダメージを受け、キューバ文学のルーツと呼べるほどの影響力を維持してきたとは言えないものの、近年の民俗学の発展や、キューバ人としてのアイデンティティへの回帰から先住民族の文化研究や意識回復が活発になってきており、児童文学においても、民話集・神話集の編纂の増加にその影響がみられる⁴。代表的な作品

¹ キューバ共和国基礎情報 首都ハバナ、面積 109,884 km²（本州の約半分）、人口約 1,148 万人、公用語スペイン語
外務省サイト <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/cuba/data.html>

² https://www.ecured.cu/Literatura_cubana

³ 国際子ども図書館のキューバで出版された児童書の所蔵冊数は1冊。（2020年2月末現在）

⁴ Ramón Luis Herrera Rojas, Mirta Estupiñán González “Diccionario de autores de la literatura infantil cubana” (Editorial Gente Nueva, Ediciones Unión, 2015, 2 volumes)

として、民俗学者ミゲル・バルネット⁵が児童向けにキューバ口承文学を編纂した作品⁶や、1960～80年代に活躍したキューバ人作家サムエル・フェイホー⁷が編纂した民話集⁸などがある。

公用語がスペイン語であることからわかるとおり、キューバを400年もの間支配してきたスペインの影響は、言語・宗教・生活様式といった文化の根幹に及んでいる。例えば、「カンペシーノ（campesino）」と呼ばれる、キューバの農民の間で発達した吟遊文化は、スペインの舞踊や吟遊文化の影響を強く受けたものの一つである⁹。こうした吟遊文化の発達とともに、詩作や作詞、歌謡が盛んに行われたキューバらしく、児童文学作品でも詩集・歌謡集の類は大変多い。

加えて、スペイン人征服者が100年以上に渡って強制連行したアフリカ諸国の黒人奴隷により、アフリカの文化が広く持ち込まれ、深くじっくりと融合し、特に音楽や宗教、文学、芸術全般において著しく発展していく。

枝分かれに発展していった融合文化の中でも、特にアフリカ文化の影響を強く受けたジャンルは「アフロキューバ」と呼ばれ、キューバ児童文学作品にも多くみられる¹⁰。中でも、アフリカを源流とする宗教や神話を取り込んだ話や、アフリカ特有の名詞や音詩を活かす作品はかなり増加傾向にある¹¹。

また、近年は黒人奴隷をメインテーマや主人公にした作品が出てきた点もキューバ児童文学の特徴の一つである。彼らの過酷な生活や境遇を描くことで、人種問題やアイデンティティを問うヤングアダルト向けの小説がかなり見受けられる¹²。

1850年代から、キューバ国内でスペインからの独立の機運が高まり、1890年代の第二次独立戦争を経て、スペインからは独立を果たす。しかし、それは同時に、隣国アメリカ合衆国による経済搾取、傀儡状態の政治の始まりを意味するが、このスペインからの独立戦争期にキューバ児童文学の金字塔とも言える重要な作品であるホセ・マルティ¹³作『黄金時代（La Edad de Oro）』が誕生する。

キューバにおいて、児童文学に関する最も古く確かな記録が残っているものは、キューバ生まれの哲学者として草分け的存在のホセ・アグスティン・カバジェロ¹⁴による児童文学書評であり、1803年当時ハバナで発行された新聞に掲載された¹⁵。以後も児童文学作品の出版は多少あるものの、ホセ・マルティの『黄金時代』は、出版物として最も著名かつ初期を代表するキューバ児童文学作品である。

⁵ ミゲル・バルネット Miguel Barnet（1940年、ハバナ生まれ）

https://www.ecured.cu/Miguel_Barnet

⁶ 主な作品 Miguel Barnet “*Akeké y la jutía*”（Ediciones Unión, 1978）【ブックリスト No. 7 参照】

⁷ サムエル・フェイホー Samuel Feijóo（1914-1992年、ピジャ・クララ生まれ）

https://www.ecured.cu/Samuel_Feij%C3%B3o

⁸ 主な作品 Samuel Feijóo “*Mitología Cubana*”（Editorial Gente Nueva, 1992）【ブックリスト No. 34 参照】

⁹ Samuel Feijóo “*Juan Quinquén en Pueblo Mocho*”（Editorial Letras Cubanas, 2001）【ブックリスト No. 33 参照】など、「カンペシーノ」をテーマにした児童文学もある。

¹⁰ Ramón Luis Herrera Rojas, Mirta Estupiñán González “*Diccionario de autores de la literatura infantil cubana*”（Editorial Gente Nueva, Ediciones Unión, 2015, 2 volumes）

¹¹ ペドロ・フォンテ Pedro Fonte “*Cuentos de Balbina dedos de palo*”（Ediciones Al margen, 2002）【ブックリスト No. 38 参照】など

¹² テレサ・カルデナス・アングロ Teresa Cárdenas Angulo “*Perro viejo*”（Ediciones Unión, 1998）【ブックリスト No. 20 参照】など

¹³ ホセ・マルティ José Martí（1853-1895年、ハバナ生まれ）キューバ独立の父と称され、今も国民的英雄として敬われている。スペインからの独立戦争を指導した活動家であるとともに、作家、詩人、劇作家、ジャーナリスト、思想家、教育者と多面的に活躍し、キューバのみならず、ラテンアメリカ全体に影響を与えた。特に作家・詩人としては、ラテンアメリカの文学勃興運動とされる「モデルニスモ（Modernismo）」（直訳で「近代化」）の始祖と言われ、スペインによる植民地支配からの独立期にあったラテンアメリカ全体を視野に入れた活動を行い、後世に大きな影響を与えた。

https://www.ecured.cu/Jos%C3%A9_Mart%C3%AD

¹⁴ ホセ・アグスティン・カバジェロ José Agustín Caballero（1762-1835年、ハバナ生まれ）

https://www.ecured.cu/Jos%C3%A9_Agust%C3%ADn_Caballero

¹⁵ “Uso que se debe hacer de las historias para con los niños”（*Papel Periódico de La Habana*, 1803.3.6）

ホセ・マルティはニューヨークに亡命中、ラテンアメリカ諸国全体の近代化という思想を主軸に、子どもの自由な精神の育成を目的としたラテンアメリカで初となる児童向けの雑誌¹⁶『黄金時代』（1989年～）を単独で執筆・発行した。この雑誌の連載記事を一冊に再編纂した作品が書籍の『黄金時代』である。この書籍はキューバ中の家庭に普及しており、教科書とともに児童の必須読本とされている。政府色の強い書籍には食傷気味のキューバ人たちも、『黄金時代』は意外なほど自発的好意的に読んでいるようである。内容は「マチスモ（machismo）」と呼ばれるラテンアメリカ文化特有の男尊女卑の感は否めないが、当時のラテンアメリカの文化や価値観を知る一冊としては面白い。キューバ児童文学の源流とも言える『黄金時代』は、多くの作家や児童文学者に研究されており、かなりの数の書評が出されている。キューバで最も権威ある児童文学賞である「黄金時代賞」の名前はこの作品が由来である。

キューバ革命以降、政府は教育と読書活動の普及に重きを置き、図書館の設置や学校教育無償化、識字率を99パーセント¹⁷にまで向上させることなどに尽力し、識字・読書環境を著しく改善させた。反面、革命直後から作家の亡命が続く状況¹⁸の背景となった言論統制や、1990年代から続く経済危機による出版業衰退などの影響から、文学や出版の発達にとって過酷な環境であることも否めず、ジャンルやテーマの自由性拡大、出版部数の回復など、未だ解決すべき課題も多い。1970年以降は推理物やファンタジーなどの創作物語も増えてきているので、より自由な発想の作品の発展が期待される。

3. キューバの出版協会、児童文学に強い出版社

キューバ出版産業の最も重要な中心組織を以下に二つあげる。作家の育成や活動支援の一環として、児童文学も含めたあらゆる文学作品、出版物、作家、文学活動を対象とした文学賞を多数主催している。

- ・キューバ書籍協会（ICL：Instituto Cubano del Libro）
- ・キューバ作家芸術家組合（UNEAC：La Unión de Escritores y Artistas de Cuba）

<http://www.uneac.org.cu/>

また、以下は児童文学専門の出版社および児童文学に強い出版社である。政府の政策により、児童文学専門の出版社は存外多く、また首都ハバナに限らず、各地方都市にもあり、地域での読書や作家発掘の推進活動の中心となっている。

- ・ヘンテ・ヌエバ社（Editorial Gente Nueva）（ハバナ）

<http://www.gentenueva.cult.cu/>

1967年キューバ書籍協会（ICL）を母体に設立された出版社6社の内の1社。キューバ人児童文学作家の作品に加え、海外の古典作品の再編作品を出版するなど幅広い作風の書籍を出版している。児童文学賞「黄金時代賞（Premio La Edad de Oro）」を主催。若手作家育成にも力を入れている。

¹⁶ Ramón Luis Herrera Rojas, Mirta Estupiñán González “Diccionario de autores de la literatura infantil cubana” (Editorial Gente Nueva, Ediciones Unión, 2015) vol. 2 pp. 40-47

¹⁷ https://www.unicef.org/spanish/infobycountry/cuba_statistics.html

¹⁸ キューバ革命以降、キューバから亡命した作家が海外に在住しながら作り出した作品ジャンルは、「亡命文学」や「ディアスポラ（Díaspóra）」と呼ばれることもあり、それらをキューバ文学としてどう位置づけるか、今も議論の対象となっている。Dieter Ingenschay “Exilio, insilio y diáspora. La literatura cubana en la época de las literaturas sin residencia fija” (Ángulo recto : revista de estudios sobre la ciudad como espacio plural, v.2 n.1, 2010) <http://www.ucm.es/info/angulo/volumen/Volumen02-1/articulos02.htm>

・アブ ril 社（Casa Editora Abril / Editorial Abril）¹⁹（ハバナ）

<http://www.editoraabril.cu/>

1980年新聞社を母体に児童・青少年向け雑誌の出版社として設立。児童月刊誌『Zunzún』²⁰の出版社として有名。作品は教育色、政治色が強めで、やや硬い印象。毎年開催される「年間賞（Premio Calendario）」を受賞した作品は当社で出版される。

・ウニオン社（Ediciones Unión）（ハバナ）

<http://www.uneac.org.cu/editoriales/ediciones-union>

キューバ作家芸術家組合（UNEAC）を母体とする出版社。児童書専門出版社ではないが、児童書出版においても大きな活動力、影響力を持つ。

・ラ・ルス社（Ediciones La Luz）（オルギン）

<http://edicioneslaluz.cubava.cu/>

文化芸術推進機関エルマノス・サイス協会（AHS：Asociación Hermanos Saíz）の系列で、キューバ東部の都市オルギンを拠点に活動する出版社。自由な精神をモットーに若手作家の育成なども精力的に行う。

4. 代表的な児童文学賞

・黄金時代賞（Premio La Edad de Oro）²¹

1972年設立、ヘンテ・ヌエバ社が主催。キューバ国内で最も古く、権威のある児童文学賞。年一回コンクールを開催。応募資格は商業的に未発表の作品、部門はSF、幼児向け、科学教育、歴史物、劇作品などに分かれている。同じ作家が複数の部門に応募することもできる。

・白バラ賞（Premio La Rosa Blanca）²²

1985年設立、キューバ作家芸術家組合（UNEAC）が主催。黄金時代賞とともにキューバ児童文学賞の最高峰。設立以来ほぼ毎年、年一回受賞発表がされている。設立初期は該当する年内に出版された児童文学作品のみが受賞対象だったが、その後、イラストレーション部門や、キューバ国外で出版されたキューバ人作家の作品部門など、年々受賞対象を拡大していて、現在様々な特別賞も存在する。

・四月賞（Premio Abril）²³

アブ ril 社主催の児童文学賞。キューバ国内在住の作家であれば誰でも参加可能で年齢制限なし、ただし、過去に同賞を受賞している者は応募できない。対象作品は未発表の児童文学。コンクールの開催は年一回とされているが、多少ばらつきがある。

・年間賞（Premio Calendario）²⁴

文化芸術推進機関エルマノス・サイス協会（AHS）主催の児童文学賞。年一回、35歳までのユースを対象にしたコンクールを開催。受賞部門はSF、詩、劇作品、創作物語、エッセイなど。受賞作品はアブ ril 社より出版され、翌年1年かけてプロモーションされるので、ハバナ国際ブックフェアや書店などで手に入りやすい。

¹⁹ 正式な社名は「Casa Editora Abril」だが、ブックリストにおいては、検索の利便性を鑑みてほとんどの児童文学資料、書評で表記されている「Editorial Abril」に統一した。

²⁰ <http://www.editoraabril.cu/revista/zunz%C3%BAn>

²¹ https://www.ecured.cu/Premio_La_Edad_de_Oro

²² https://www.ecured.cu/Premio_La_Rosa_Blanca

²³ <http://www.editoraabril.cu/premios>

²⁴ https://www.ecured.cu/Premios_Calendario

以下は、児童文学賞ではないが、児童文学部門のある重要な文学賞である。

・ **国立文学賞（Premio Nacional de Literatura）**²⁵

キューバ文化省主催、キューバ書籍協会（ICL）主管のキューバ最高峰文学賞。1982年設立以降、毎年開催。作家本人、もしくは作家の業績全体を授与対象としており、過去には児童文学作家も幾度か表彰されている。

・ **カサ・デ・ラス・アメリカス賞（Premio Literario Casa de las Américas）**²⁶

キューバ国立ラテンアメリカ文化研究施設カサ・デ・ラス・アメリカス²⁷主催の文学賞。キューバのみならずラテンアメリカ全域の作品が対象、児童文学部門あり。

・ **エルマノス・ロイナス賞（Premio Hermanos Loynaz）**²⁸

エルマノス・ロイナス文学発展振興センター（El Centro de Promoción y Desarrollo de la Literatura Hermanos Loynaz）主催、ピナル・デル・リオ州立文化庁および州立書籍文学センター（La Dirección Provincial de Cultura y el Centro Provincial del Libro y la Literatura de Pinar del Río）後援の文学賞。受賞対象はキューバ国内在住のキューバ人作家による未刊行作品。対象部門は児童文学、物語、詩の3部門。受賞作品は出版される（ロイナス社からの出版が多い）。

・ **ラ・クリティカ賞（Premio Anual de la Crítica）**²⁹

キューバ書籍協会（ICL）主催。対象年内にキューバ国内の出版社から編纂された出版物対象の年間賞。現役のキューバ人作家の文学作品、児童文学作品、及びキューバ人芸術家の美術本、ビジュアル本などが受賞対象。

5. 代表的な児童文学作家

・ **ドーラ・アロンソ Dora Alonso（1910～2001年、マタンサス生まれ）**³⁰

作家、児童文学評論家、詩人、脚本家（ラジオ、劇場）、教育者、キューバを代表する児童文学作家であり草分け的存在。国内の主要児童文学賞はほぼ全て受賞しており、作品群全体に対しても国立文学賞（1988年）や白バラ賞最高特別賞（2000年）を受賞。他に、キューバ児童文学の発展に最も貢献した人物として政府から表彰を受けている。

・ **エンリケ・ペレス・ディアス Enrique Pérez Díaz（1958年、ハバナ生まれ）**³¹

児童文学作家、編集者、ジャーナリスト、児童文学評論家、ヘンテ・ヌエバ社代表。自身の創作においても多作だが、児童文学評論の記事や、キューバ児童文学作家の短編を集めたアンソロジー³²など数多く編纂。国際児童図書評議会（IBBY）のキューバ・コミュニティ所属。1993～2008年キューバ作家芸術家組合（UNEAC）児童文学部門代表を務める。また、2014年キューバ人作家で初の国際アンデルセン賞審査員に就任。児童文学全般の活動を評した白バラ賞特別賞（2005年）を始め、国内外の児童文学賞を多数受賞。

²⁵ https://www.ecured.cu/Premio_Nacional_de_Literatura

²⁶ <http://www.casadelasamericas.org/premios/literario/convocatoria.php>

²⁷ <http://www.casadelasamericas.org/index.php>

²⁸ <http://www.cubarte.cu/la-papeleta/convocan-concurso-literario-hermanos-loynaz-2019/>

²⁹ https://www.ecured.cu/Premio_Anual_de_la_Cr%C3%ADtica

³⁰ https://www.ecured.cu/Dora_Alonso

³¹ <http://cubarte.cult.cu/autores/enrique-perez-diaz/>

³² “*Cuentos a caballo*”（Ediciones Almargen, 2006）【ブックリスト No. 43 参照】や “*Vestida de mar y otros cantos de sirenas*”（Ediciones Unión, 2010）【ブックリスト No. 44 参照】など。

・ネルシス・フェリペ Nersys Felipe（1935年、ピナル・デル・リオ生まれ）³³

物語作家、詩人、脚本家（ラジオ、劇場）。国内の主要児童文学賞のほとんどを受賞。作品群全体に対して白バラ賞最高特別賞（2004年）や国立文学賞（2011年）を受賞。

・エリセオ・ディエゴ Eliseo Diego（1920～1994年、ハバナ生まれ）³⁴

ジャーナリスト、詩人、児童文学評論家、翻訳家、ヘンテ・ヌエバ社創設者。グリムやアンデルセンの童話等、ヨーロッパの古典児童文学を多数翻訳。学校教材の執筆も多い。キューバ国立文学賞（1986年）受賞者。また、詩集や児童文学書評でも多数の文学賞を受賞している。1970年まではホセ・マルティ国立図書館児童文学部門の最高責任者も務めた、キューバの児童文学普及において重要な人物。

・フリヤ・カルサディージャ Julia Calzadilla（1943年、ハバナ生まれ）³⁵

物語作家、詩人、翻訳家。国内の児童文学賞を多数受賞。作品群全体に対して白バラ賞最高特別賞受賞（2004年）。翻訳書にて国際翻訳連盟主催のアストリッド・リンドグレン賞受賞（2014年）³⁶。

・アルマ・フローラ・アダ Alma Flor Ada（1938年、カマグエイ生まれ）³⁷

物語作家、詩人。高校生時代の米国留学をきっかけに奨学金を得て米国、ヨーロッパ、南米等数カ所の大学で学ぶ。物語作家としての活躍に加え、教育者としても評価が高く教育関連書籍を多数出版。出版の多くは英語、もしくはスペイン語でなされている。

・ホエル・フランス・ロセル Joel Franz Rosell（1954年、シエンフエゴス生まれ）³⁸

世界の広い地域で活躍しているキューバ人児童文学作家。フランス在住。スペイン語やフランス語の原書がヨーロッパやアジアで広く翻訳出版される。

6. 図書館の状況

1961年開始の識字運動の中核として国立および公立図書館を設置する政策が施行された。400箇所近く創設された図書館は現在文化省が管轄し、ホセ・マルティ国立図書館（La Biblioteca Nacional de Cuba José Martí）が実質的絶対的な統括機関となっている³⁹。なお、ホセ・マルティ国立図書館は一般市民でも利用者登録をすることで閲覧などのサービスが利用可能だが、学生や教授といった特定のカテゴリーに該当する場合、書籍貸し出しなどより幅広く優先的なサービスの利用が可能となる。外国人の場合、事前に入館申請をして許可された人のみ利用可能。

また、毎年2月に開催されるハバナ国際ブックフェア⁴⁰主管の一端を担っている。ただし、2014～17年に訪れた際の体験談にはなるが、開催会場や来場者等の規模は大きいものの、キューバで出版された児童文学書籍の作品数はあまり多くなかった。

ホセ・マルティ国立図書館は読書環境推進政策の一環として、活躍が認められる図書館員、教員、文化広報員を表彰するラウル・フェレル賞（Premio Raúl Ferrer）や、学生を対

³³ https://www.ecured.cu/Nersys_Felipe

³⁴ https://www.ecured.cu/Eliseo_Diego

³⁵ https://www.ecured.cu/Julia_Calzadilla_N%C3%BA%C3%B1ez

³⁶ <https://www.fit-ift.org/awards/astrid-lindgren/>

³⁷ <http://almaflorada.com/>

³⁸ <http://elpajarolibro.blogspot.com/>

なお、日本で唯一翻訳出版されているホエル・フランス・ロセル（日本語翻訳書表記ジョエル・フランツ・ローゼルの絵本『よるのクロネコ』（2017年 ワールドライブラリー社）【当館請求記号 Y18-N18-L224】）は、フランス語原書であり、フランス文化の影響が強い作品であるため、今回ブックリストには入れなかった。

³⁹ <http://www.bnjm.cu/>

ホセ・マルティ国立図書館の児童文学専門部署が運営するサイト <http://papalotero.bnjm.cu/>

⁴⁰ https://www.ecured.cu/Feria_Internacional_del_Libro_de_La_Habana

象にホセ・マルティの文学作品をオマージュした作品（感想文、芸術作品など）を募集するレエル・ア・マルティ・コンクール（Concurso Leer a Martí）などを主催している⁴¹。

全国の図書館には基本的に児童文学セクションが設けられているが、児童文学専門図書館は無い。図書館の主な対外活動は、図書館員が病院や障害者施設、高齢者介護施設などへ読み聞かせイベントの開催などの福祉目的で出張する活動、長年にわたる経済危機により過酷な蔵書不足を抱えている学校図書室へ近隣の公立図書館員が蔵書とともに教育目的で出張する活動、地域交流の場作りの一環として開催される読み聞かせプロジェクト、映像資料公開、地域での児童対象の芸術コンクールの支援や会場提供、文学コンクール開催などがある。

なお、司書資格の取得には図書技術学校（Escuela de Técnicos Medios de Bibliotecas）などの専門学校を卒業するか、大学での専攻課程受講が義務付けられている⁴²。

7. 児童文学書籍の流通

書籍の流通状況の正確かつ最新の数値の把握は難しく、かなり古いデータの参照となるが、出版書籍のタイトル数については、2016年に一度増加しているものの、ほぼ横ばい。書籍の出版総数は増減を繰り返しつつ、全体的に減少傾向であり、児童書も同様に減少傾向⁴³。社会主義体制の維持と、アメリカ合衆国からの経済制裁といった要因から慢性的な経済危機が続き、未だ回復は厳しい状態である。

8. 海外でのキューバ人児童文学作家の翻訳出版状況

キューバで出版された書籍は、公用語が同じスペイン語圏では比較的流通している様子だが、他言語圏での翻訳出版となると未だ作品数はかなり少ないと言える。それでも一般小説などの文学作品は近年増加傾向にあるが、こと児童文学作品に関しては作品数、発行部数とも少ないまま横ばい状態が続いている。そのような状況の中でも比較的海外で翻訳出版されているキューバ児童文学作品としては、ホセ・マルティ『黄金時代』、キューバ児童文学作家の代表的存在であるドーラ・アロンソの作品、そしてキューバ国外在住作家による作品が多くを占める。

9. リスト作成時に留意した点

キューバ在住時に見聞した書店の様子や、児童文学の入手の難しさへの実感から、作品点数はかなり少数になることを懸念していたが、児童文学作家の人数や作品数は思いのほか多かった。ただし、先述したとおり一般書店での書籍入手はかなり困難であることは否めない（書籍自体は販売されているが、過去の作品や自分が希望するものを取り寄せてもらうことなどは難しい）。そのため、今回のブックリスト作成では、あまりに入手困難な古い代表作や受賞作品よりは、今も比較的手に入りやすい作品を優先するなどの配慮をした。

また、受賞歴を最優先に選出すると、かなり作品内容の偏ったリストになってしまうため、受賞歴がなくても作者の意向や文化的価値を感じるものは優先的に選出した。

⁴¹ <http://www.bnjm.cu/pnl>

⁴² Jorge del Castillo Guevara, Yohannis Marti-Lahera “Las bibliotecas públicas en Cuba: su aporte al desarrollo comunitario” (ACIMED, v.13 n.6, nov.-dic. 2005)
http://scielo.sld.cu/scielo.php?script=sci_arttext&pid=S1024-94352005000600018

⁴³ 出版に関する統計情報参考 キューバ国立情報統計事務局（Oficina nacional de Estadística e Información）
“Tablas en cifras Cultura (2018)” 14.1 Valor de la circulación mercantil mayorista total y la red minorista por grupos de productos (conclusión), 20.1 Titulos de libros publicados 2012-2017, 20.2 Libros y folletos publicados 2012-2017

10. キューバ児童文学を知るための参考文献、サイト等

- Ramón Luis Herrera Rojas, Mirta Estupiñán González “*Diccionario de autores de la literatura infantil cubana*” (Editorial Gente Nueva, Ediciones Unión, 2015, 2 volumes)⁴⁴
キューバの児童文学者 700 人以上をアルファベット順に掲載した辞典。著者のプロフィールや作品、受賞歴のみならず、様々な媒体での児童文学書評などを適宜引用しており、キューバ児童文学者について広く深く網羅した内容。
- 「3. キューバの出版協会、児童文学に強い出版社」で紹介した各出版社のホームページ
- 「EcuRed」 https://www.ecured.cu/EcuRed:Enciclopedia_cubana
キューバの情報を網羅しているアンサイクロペディア。
- エルマノス・サイス協会（AHS : Asociación Hermanos Saíz）<http://www.ahs.cu/>
文化芸術推進機関であるエルマノス・サイス協会が運営するサイト。文学、芸術、音楽等キューバ文化の記事が豊富。
- 「cubarte, Portal de la Cultura Cubana」 <http://www.cubarte.cult.cu/>
キューバ文化省の文化広報機関「Cubarte」が運営する情報発信サイト。
- 「Cubaliteraria」 <http://www.cubaliteraria.cu/>
キューバ書籍協会（ICL）が運営するキューバ文学サイト。

※本報告書で参照したウェブサイトの最終アクセス日は 2020 年 2 月 26 日。

⁴⁴ 【ブックリスト No. 1 および No. 2 参照】
<http://www.revistaccuba.cu/index.php/revacc/article/viewFile/504/494>